

2020(R2)年度 シラバス

教科	科目	単位数	指導学年	必履修・選択
地理歴史	地理A	2	3学年	必履修

1. 教科の目標

現代社会の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、地理的認識を養うとともに、地理的な見方・考え方を培い、国際社会に主体的に生きる地球市民としての自覚と資質を養う。

2. 評価の観点および趣旨

関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 世界中の国々の名称と位置関係を積極的に追求するとともに、地名や地域名への興味や関心を高めようとしている。 身近な地域の特色、変化、国際化、課題等について意欲的に調査活動をし、地域への関心を高めて発展のために努力している。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の諸事情から調査課題を見つけ、調査から得られた情報から人々の生活の特色や変化、抱える課題との関連性について考察している。
資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成を把握し、地球儀や世界地図を利用し、多角的に表現しようとしている。 野外調査によって、調査課題の追求のため情報の収集、選択、地形図の読図、土地利用等地理的なまとめ方や発表方法等を身につけている。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 世界の地域構成を基本とし、国の様子などを理解している。 地域の特色をとらえる視点や方法等を理解し、その知識を身につけている。

3. 評価方法・・・定期テスト60%、授業態度10%、ファイル(ノト)、課題・提出物30%

- ① 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
- ② 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的に判断する。
- ③ ファイル(ノト)・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
- ④ 課題・提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。

4. 使用教科書・教材

教科書・・・帝国書院 『高校生の地理A』、 地図帳・・・帝国書院 『標準高等地図』

5. 授業の展開と形態

5学科7クラス

6. 学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント（教科書準拠内容・白地図等）や資料プリントを使用する。
- ③ 授業は進度予定表に従って行き、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ VTRや新聞などを適宜利用し、現代の社会情勢を感じさせながら学ばせる。

7. 進捗予定表

月	週	配当時間	単 元	学習内容と評価の観点
5月	1	7	第一部 現代社会の特色と世界の諸地域の課題 1章 旅からとらえる現代世界 (4～21 頁)	・現代世界の旅の様子や世界各国の結びつきや貿易を理解して、地球儀と世界地図の位置関係、方位、時差および日本の位置と領域をとらえることができる。
	2			
	3			
6月	4	5	2章 世界の自然環境と文化 1節 地形(24～31 頁)	・自転や公転など地球の運動や、地球をとりまく自然現象などに着目して、地形の成り立ちについて理解を深める。
	5			
	6			
7月	7	6	2節 気候(32～43 頁)	・ケッペンの気候区分について理解を深めて、世界各地の気候帯の仕組みについて考察する。
	8			
	9			
8月	10	2	3節 文化(44～47 頁)	・世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身につける。
	11			
	12			
9月	13	6	3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国(50～59 頁)	・近隣諸国の生活・文化の特色を追求し、日本との共通性・異質性を地理的に考察する視点や方法を身につけるとともに、異文化を理解し尊重することが必要であることについて考察する。
	14			
	15			
10月	16	3	2節 韓国(60～65 頁)	・ヨーロッパ、アメリカといった欧米諸国の文化や歴史について追求し、日本との共通点や西欧独自の価値観などを考察させる。グローバルかつ多文化社会である西欧諸国の近況を学び、今後の課題についても理解を深める。
	17			
	18			
11月	19	5	7節 ヨーロッパ(92～101 頁)	・ヨーロッパ、アメリカといった欧米諸国の文化や歴史について追求し、日本との共通点や西欧独自の価値観などを考察させる。グローバルかつ多文化社会である西欧諸国の近況を学び、今後の課題についても理解を深める。
	20			
	21			
12月	22	6	4章 地球規模で広がる課題 (128～143 頁)	・環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を追求し、地球規模の課題は清国であることを理解し、解決にむけて各国の取り組みについて考察する。
	23			
	24			
1月	25	6	第2部 生活圏の諸課題の地理的考察 1章 身近にある様々な地図 (144～155 頁)	・環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題は相互に関連しあっていることを理解する。
	26			
	27			
2月	28	8	2章 日本の自然環境と防災 (156～171 頁)	・日本や近隣諸国が取り組む地球的課題と、地域性を踏まえた国際協力を理解し、日本の立ち位置について考察する。
	29			
	30			
2月	31	4	3章 身近な地域の課題と地域調査 (174～181 頁)	・身近な地域で発生しやすい災害について理解し、自分たちにできることを考察して、その知識を身につける。
	32			
	33			